

●増戸小学校のサルスベリ

最近、樹勢が衰え気味の木を見ることが増えてきました。増戸小学校の校舎前にある「サルスベリ」もその一つです。この木は、主幹が30度くらい傾いており、樹高は3m、一番下の枝は地上から1.5mの位置にあり、子供たちが登るにはちょうど良い傾斜度と枝張りになっているため、木登りに最適です。

しかし、根株から主幹にかけて大きな洞(うろ)があるため、強度不足による幹折れ事故が心配されるとのことで、「危険度」を調べました。

地上から1.2mの高さの幹周が1mあり、サルスベリとしてはかなりの大木になります。増戸小学校が開校して140年とのことで、開校当時に小さなサルスベリを植えたのであれば樹齢150年以上と考えられる老木です。近所に住む増戸小学校OBの年配の方から、「自分が通っていたときからサルスベリは今と変わらない大きさだった」との話も聞きました。

木を見ると、傾きや洞のほか、幹や大枝の先端に枯れこみが見られ、木部(樹木の重量を支える芯の部分)の腐朽(腐り)も確認できます。また、サルスベリが健全に成長しているときに見られる樹皮剥がれが見られない状態です。さらに、主幹にポツポツと癌腫(がんしゅ)も見られるので、とても健全な状態とは言えません。しかし、枝葉は茂り、開花が始まったうえに、たくさん花芽(蕾)も見られます。

このような状況で、幹折れなどの危険性を考慮して伐採するという選択もありました。しかし、校長先生や地域の年配の方々の話から、樹勢回復を目指して保存する方向で話が進みました。

学校は、子供たちのために「命を大切にす」教材としてサルスベリを守っていくそうです。地域の方々は、自分たちが子供のころから目にしていた木が残ることを喜んでくれました。



主幹が開口して腐りが侵入



梢の剪定痕が枯れて腐り始めている

主幹が開口して腐りが侵入

癌腫

(一般的な土壌菌が樹皮のキズから侵入し、組織が癌化するケースと思われる。)

●治療について

まずは、幹折れ防止の支柱が必要になります。その後は、サルスベリ自身が自力で樹勢を回復できるように、毎秋に行われる切り戻し剪定を中止して、春に剪定痕から不定芽(ふていが)をつくる負担を減らします。数年後、樹勢回復が確認できてから、癌腫の削り取りを行う予定となります。

人のけがに例えれば、大けがで骨折し入院した時、ギプス(支柱)をして安静にします。その期間、体力を消費する運動(剪定)は控えます。体力が回復してきたら(サルスベリの場合、樹皮の剥がれが確認できてから)外科手術(癌腫の削り取り)を行い、元気を取り戻してもらいます。

樹勢が回復するまでに数年かかる気の長い養生になりますが、じっくりと診ていくこととなります。

●地域の力

幹折れ防止の支柱は、増戸地区の地域の方がボランティアで作ってくれました。朝から作業を始めて昼前には作業が終わりました。手際の良い作業は、手弁当で来てくれた造園会社の社長さん、その他に、私を含め素人2名がお手伝いしました。

これで当面は、倒壊の心配もなく、安心して子供たちが走り回ることができるようになりました(木登りは禁止です)。

歴史ある学校を見てきた老木のサルスベリ、さらにそれを見守る地域の方々の技能や底力がこの木を助けたかたちになりました。一見、シンプルな支柱ですが、地域の方の思いが形になった支柱です。

(杉野 二郎)

